

2020.11.11.日

恐竜オブジェは情報の塊

◇新聞紙で制作 見出しに時代映す◇ 杉崎 良子



肉食獣脚類「グアンロン」をモチーフにした作品「消失」(2020年、約70×120×280ミリ)



ピッチで競技場の建設を伝えている。今も昔も似たようなことをしていたんだと感慨深い。

材料として選んだ新聞

記事の単語はよく見てほしいところである。だが、

あまりに大きいと、見る

人が文字まで注意を払わ

なくなってしまうので、

そこで、なつかつ中心部

には弾力があつて柔らか

い固まり具合が理想とい

える。

ある程度、形ができあ

がつてきたりやすりをか

けて表面を整え、その上

に新聞紙を貼つていく。

作業を3回程度繰り返し、表面が滑らかになつ

たら表皮の新聞紙を貼

る。ピンセットで細かく

ちぎった「羽」を植毛す

るようにして表皮に貼る

こともある。新聞によつ

て紙質は違つ。ちなみに

日経新聞は薄くて軽いの

で、細かい歯などを作り

込むのに向いている。

表皮の新聞紙には、気

になった記事を切り抜い

ておいて使う。今年は「コ

ロナ」「感染者」「経済

悪化」など暗い単語が目

立つ。1月に復刻された

1964年の東京五輪に

ついて伝える当時の新聞

に切つた新聞紙をこしやくしやに丸めてのりで固定して肉付けする。

紙の固め方は重要なボ

イントだ。のりを付けす

ぎると紙が破れるし、少

なすぎると締まつた身に

ならない。切つた時に断

面にぎっしり紙が詰まつ

くわくする。
そして、あらゆる人間
の営みを文字で記録して
きたのが新聞だろう。毎

日更新され、そのダイナ
ミズムは人類の新陳代謝
のようで、新聞紙と向き
合つ作業は面白い。

12日から東京・池袋の

「ギャラリー上り屋敷」

で作品を披露する。思つ
たような形を作るにはま
だまだ修業が足りない。

これまで恐竜以外にも対象を

広げ、多様な形を作る腕

を磨いていくたい。また

新しい恐竜が発見された

ときには幼稚園の時だつ

た。東京・上野の国立科

学博物館で大きな化石を

見た。小中学生の時は映

画「ジュラシック・パー

ク」が流行し、私は書店

にあふれた恐竜関連の本

を読みあさつた。

調べれば調べるほど、

恐竜は人間と関係が深い

と感じる。例えば、獣脚

類のスピノサウルスは1

915年に最初の化石が

発見されたが、第2次世

界大戦中の連合軍による

ミュンヘン空襲で破壊さ

れてしまった。

ノートやスケッチなど

しか残されておらず、復

元は難航した。研究が進

んだのは2013年ころ

に新しい化石が見つかっ

て研究が進む。世界のど

こかで発掘されるのを待

つている恐竜がまだいる

かもしれないと思うとわ